

Thu. Sep 9, 2021

Room 2

Keynote Lecture | 専門領域別 | Philosophy

A conceptual study of professional athletes

Chair: Masami Sekine (Nippon Sport Science University)

9:40 AM - 10:40 AM Room 2 (Zoom)

[00 哲-レクチャー-1] A conceptual study of professional athletes

*Hideki Takaoka¹ (1. Keiai University)

9:40 AM - 10:40 AM

Room 5

Keynote Lecture | 専門領域別 | Psychology

Self-regulated learning in physical education and sport

Chair: Akira Anii (University of Teacher Education Fukuoka)

9:00 AM - 10:00 AM Room 5 (Zoom)

[03 心-レクチャー-1] Self-regulated learning in physical education and sport

*Yasuo Susaki¹ (1. Shimane University)

9:00 AM - 10:00 AM

Keynote Lecture | 専門領域別 | Psychology

Perceptual skill underling motor control and learning

Chair: Hiroshi Sekiya (Hiroshima University)

10:00 AM - 11:00 AM Room 5 (Zoom)

[03 心-レクチャー-2] Perceptual skill underling motor control and learning

*Hiroki Nakamoto¹ (1. National Institute of Fitness and Sports in Kanoya)

10:00 AM - 11:00 AM

Room 6

Keynote Lecture | 専門領域別 | Biomechanics

Figuring out the generating mechanisms of high-speed swinging motions in sports

Chair: Shinji Sakurai (Chukyo University)

11:00 AM - 12:00 PM Room 6 (Zoom)

[05 バ-レクチャー-1] Figuring out the generating mechanisms of high-speed swinging motions in sports

*Sekiya Koike¹ (1. University of Tsukuba)

11:00 AM - 12:00 PM

Room 13

Keynote Lecture | 専門領域別 | Cultural Anthropology

Exploring the future of sports anthropology in school physical education

3:00 PM - 4:00 PM Room 13 (Zoom)

[12 人-レクチャー-1] Exploring the future of sports

anthropology in school physical education

*Hisashi Sanada¹ (1. University of Tsukuba)

3:00 PM - 4:00 PM

Room 8

Keynote Lecture | 専門領域別 | Growth and Development

Current status and perspective of learning activities in physical education considering anti-COVID-19 measures

Chair: Izumi Yoshida (Tokyo Gakugei University)

1:00 PM - 2:00 PM Room 8 (Zoom)

[07 発-レクチャー-1] Current status and perspective of

learning activities in physical education considering anti-COVID-19 measures

*Hideki Shiomi^{1,2} (1. National Institute for Educational Policy Research , 2. Japan Sports Agency Policy Division)

1:00 PM - 2:00 PM

Keynote Lecture | 専門領域別 | Philosophy

A conceptual study of professional athletes

Chair: Masami Sekine (Nippon Sport Science University)

Thu. Sep 9, 2021 9:40 AM - 10:40 AM Room 2 (Zoom)

本発表では、浅田学術奨励賞受賞論文の内容を概説し、その今日的意義について検討する。同論文では、経済・技術・倫理の三見地からプロフェッショナル競技者の概念内容を明らかにすることを目的とし、下記の議論を展開した。第一に、経済的見地から、職業としてのプロ競技者を定義し、収入形態や資格の付与といった観点から様々な形態があり得る可能性を示した。第二に、技術的見地から、スポーツ構造に則った技能の発揮というプロ競技者の技術的特性を明らかにし、組織的創造によりプロ競技者がスポーツ構造を変容させ得ることを指摘した。第三に、倫理的見地から、ゲームの成立、勝利の追求というミクロなレベルから、観戦者の魅了、社会のロールモデルの体現といったよりマクロなレベルまで、様々な社会的役割をプロ競技者は担うことになる結論づけた。この中で特に今日的に意義があるのは倫理的見地に関する考察であろう。アマチュアスポーツ界で生じる暴力やハラスメントが社会的批判を受ける昨今、社会のロールモデルを担うプロ競技者の存在は一層重要性を増すと考える。

[00 哲-レクチャー-1] A conceptual study of professional athletes

*Hideki Takaoka¹ (1. Keiai University)

9:40 AM - 10:40 AM

9:40 AM - 10:40 AM (Thu. Sep 9, 2021 9:40 AM - 10:40 AM Room 2)

[00 哲-レクチャー-1] A conceptual study of professional athletes

*Hideki Takaoka¹ (1. Keiai University)

<演者略歴>

敬愛大学経済学部准教授

筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程単位取得退学・博士（体育科学）

本発表では、浅田学術奨励賞受賞論文の内容を概説し、その今日的意義について検討する。同論文では、経済・技術・倫理の三見地からプロフェッショナル競技者の概念内容を明らかにすることを目的とし、下記の議論を展開した。第一に、経済的見地から、職業としてのプロ競技者を定義し、収入形態や資格の付与といった観点から様々な形態があり得る可能性を示した。第二に、技術的見地から、スポーツ構造に則った技能の発揮というプロ競技者の技術的特性を明らかにし、組織的創造によりプロ競技者がスポーツ構造を変容させ得ることを指摘した。第三に、倫理的見地から、ゲームの成立、勝利の追求というミクロなレベルから、観戦者の魅了、社会のロールモデルの体現といったよりマクロなレベルまで、様々な社会的役割をプロ競技者は担うことになる結論づけた。この中で特に今日的に意義があるのは倫理的見地に関する考察であろう。アマチュアスポーツ界で生じる暴力やハラスメントが社会的批判を受ける昨今、社会のロールモデルを担うプロ競技者の存在は一層重要性を増すと考える。

Keynote Lecture | 専門領域別 | Psychology

Self-regulated learning in physical education and sport

Chair: Akira Anii (University of Teacher Education Fukuoka)

Thu. Sep 9, 2021 9:00 AM - 10:00 AM Room 5 (Zoom)

体育やスポーツにおいて、学習者や選手が主体的な態度で学習や練習に取り組むことの重要性が指摘されている。このような主体的な学習に関して、自己調整学習の理論に基づく研究が行われてきている。自己調整学習とは、「学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、自分自身の学習過程に能動的に関与していること」と定義されるものである。また、自己調整学習は生得的な能力を示すものではなく、学習を通して獲得可能とされるスキルとされている。そのため、体育やスポーツを通して自己調整学習を意図した支援を行うことで、学習者や選手の自己調整学習の形成に寄与することができる。

演者は、自己調整学習の理論に基づき、体育やスポーツにおいて主体的な学びがパフォーマンスだけではなく、心理的な効果にどのような影響を及ぼすかといった問題について取り組んできた。本キーノートレクチャーでは、演者が行ってきたこれらに関連する研究の成果を参照しながら、体育とスポーツにおける自己調整学習の役割について検討することを試みる。

[03 心-レクチャー-1] Self-regulated learning in physical education and sport

*Yasuo Susaki¹ (1. Shimane University)

9:00 AM - 10:00 AM

9:00 AM - 10:00 AM (Thu. Sep 9, 2021 9:00 AM - 10:00 AM Room 5)

[03 心-レクチャー-1] Self-regulated learning in physical education and sport

*Yasuo Susaki¹ (1. Shimane University)

<演者略歴>

福岡教育大学大学院修士課程修了。九州大学大学院博士後期課程単位修得退学。博士（教育学）。現在、島根大学講師。島根大学では主にスポーツ心理学、陸上競技、ソフトボールを担当。

体育やスポーツにおいて、学習者や選手が主体的な態度で学習や練習に取り組むことの重要性が指摘されている。このような主体的な学習に関して、自己調整学習の理論に基づく研究が行われてきている。自己調整学習とは、「学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、自分自身の学習過程に能動的に関与していること」と定義されるものである。また、自己調整学習は生得的な能力を示すものではなく、学習を通して獲得可能とされるスキルとされている。そのため、体育やスポーツを通して自己調整学習を意図した支援を行うことで、学習者や選手の自己調整学習の形成に寄与することができる。

演者は、自己調整学習の理論に基づき、体育やスポーツにおいて主体的な学びがパフォーマンスだけではなく、心理的な効果にどのような影響を及ぼすかといった問題について取り組んできた。本キーノートレクチャーでは、演者が行ってきたこれらに関連する研究の成果を参照しながら、体育とスポーツにおける自己調整学習の役割について検討することを試みる。

Keynote Lecture | 専門領域別 | Psychology

Perceptual skill underling motor control and learning

Chair: Hiroshi Sekiya (Hiroshima University)

Thu. Sep 9, 2021 10:00 AM - 11:00 AM Room 5 (Zoom)

運動の制御と学習は、様々な領域に共通した研究トピックである。特に、卓越した運動パフォーマンスを支える制御メカニズム、あるいは効率的な学習方法の解明は、スポーツ科学において長年の関心事である。本キーノートレクチャーでは、これらについて主に知覚の観点から説明を試みる。前者については、刻々と変化する環境の中で瞬時かつ適切な運動遂行を実現する熟練者の知覚特性を紹介する。具体的には、環境情報を収集する視線行動、環境を予測する知覚スキルに焦点をあてる。後者については、動作観察に基づく運動学習の個人差と動作知覚の関係について紹介する。具体的には、他者の動作知覚によって誘発される運動伝染、および予測誤差によって誘発される運動伝染に焦点をあてる。

以上の話題を通じて、知覚と運動の強固かつ双方向な影響について理解を深め、スポーツにおける運動制御と学習研究のより学際的なアプローチの必要性について議論する。また、これらを現場に活かすために必要な枠組みについて提案する。

[03 心-レクチャー-2] Perceptual skill underling motor control and learning

*Hiroki Nakamoto¹ (1. National Institute of Fitness and Sports in Kanoya)

10:00 AM - 11:00 AM

10:00 AM - 11:00 AM (Thu. Sep 9, 2021 10:00 AM - 11:00 AM Room 5)

[03 心-レクチャー-2] Perceptual skill underling motor control and learning

*Hiroki Nakamoto¹ (1. National Institute of Fitness and Sports in Kanoya)

<演者略歴>

東京学芸大学大学院修士課程修了。鹿屋体育大学大学院博士後期課程修了。博士（体育学）。現在、鹿屋体育大学准教授。

運動の制御と学習は、様々な領域に共通した研究トピックである。特に、卓越した運動パフォーマンスを支える制御メカニズム、あるいは効率的な学習方法の解明は、スポーツ科学において長年の関心事である。本キーノートレクチャーでは、これらについて主に知覚の観点から説明を試みる。前者については、刻々と変化する環境の中で瞬時かつ適切な運動遂行を実現する熟練者の知覚特性を紹介する。具体的には、環境情報を収集する視線行動、環境を予測する知覚スキルに焦点をあてる。後者については、動作観察に基づく運動学習の個人差と動作知覚の関係について紹介する。具体的には、他者の動作知覚によって誘発される運動伝染、および予測誤差によって誘発される運動伝染に焦点をあてる。

以上の話題を通じて、知覚と運動の強固かつ双方向な影響について理解を深め、スポーツにおける運動制御と学習研究のより学際的なアプローチの必要性について議論する。また、これらを現場に活かすために必要な枠組みについて提案する。

Keynote Lecture | 専門領域別 | Biomechanics

Figuring out the generating mechanisms of high-speed swinging motions in sports

Chair: Shinji Sakurai (Chukyo University)

Thu. Sep 9, 2021 11:00 AM - 12:00 PM Room 6 (Zoom)

スポーツにおいて頻繁に観察される高速スウィング動作は、身体末端部や各種打具などを急加速することによって、大きな打球スピードあるいは投球スピードを獲得するための重要な動作であるが、その生成メカニズムは明らかにはされていない。プレイヤーは、しばしば“ムチ動作”と呼ばれる身体の動力学的な特性を上手に活用することによって、末端部を非常に短時間に高速になるように急加速している。

本講演では、このしくみを解き明かす方法について解説することによって、動作改善のコツを明らかにすることとする。まず、対象とする系について、関節トルク入力に対する動作出力が、その系の運動方程式によって支配されていることを利用して、測定された動作データから、その動作生成のメカニズムを定量化する手法のあらましを述べる。そして、その適用例として、各種高速スウィング動作に適用したときの結果を示し、そこから導かれる動作生成メカニズムについて例示する。さらに、スピード獲得に対して特に大きく貢献する遠心力やコリオリ力などの運動に依存する項については、その生成要因までも明らかにするため、その要因の定量化手法についても概説し、そこから示唆される動作改善のコツについて解説する。

[05 バ-レクチャー-1] Figuring out the generating mechanisms of high-speed swinging motions in sports

*Sekiya Koike¹ (1. University of Tsukuba)

11:00 AM - 12:00 PM

11:00 AM - 12:00 PM (Thu. Sep 9, 2021 11:00 AM - 12:00 PM Room 6)

[05 バ-レクチャー-1] Figuring out the generating mechanisms of high-speed swinging motions in sports

*Sekiya Koike¹ (1. University of Tsukuba)

<演者略歴>

1995年3月 東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了 博士（工学）

2001年2月～ 筑波大学 体育系 講師、助教授、准教授を経て、現在、同大学 体育系 教授

スポーツにおいて頻繁に観察される高速スウィング動作は、身体末端部や各種打具などを急加速することによって、大きな打球スピードあるいは投球スピードを獲得するための重要な動作であるが、その生成メカニズムは明らかにはされていない。プレイヤーは、しばしば“ムチ動作”と呼ばれる身体の動力学的な特性を上手に活用することによって、末端部を非常に短時間に高速になるように急加速している。

本講演では、このしくみを解き明かす方法について解説することによって、動作改善のコツを明らかにすることとする。まず、対象とする系について、関節トルク入力に対する動作出力が、その系の運動方程式によって支配されていることを利用して、測定された動作データから、その動作生成のメカニズムを定量化する手法のあらましを述べる。そして、その適用例として、各種高速スウィング動作に適用したときの結果を示し、そこから導かれる動作生成メカニズムについて例示する。さらに、スピード獲得に対して特に大きく貢献する遠心力やコリオリ力などの運動に依存する項については、その生成要因までも明らかにするため、その要因の定量化手法についても概説し、そこから示唆される動作改善のコツについて解説する。

Keynote Lecture | 専門領域別 | Cultural Anthropology

Exploring the future of sports anthropology in school physical education

Thu. Sep 9, 2021 3:00 PM - 4:00 PM Room 13 (Zoom)

2022年度から実施される高等学校の新学習指導要領では、「スポーツは、人類の歴史とともに世界各地で日常の遊びや生活などから生まれてきたこと、近代になって、スポーツは娯楽から競技に変化し、一般の人びとに広がっていったこと、現代では、競技だけでなく、広く身体表現や身体活動を含む概念としてスポーツが用いられるようになってきており、その理念が時代に応じて多様に変容してきていることを理解できるようにする」と明記されている。この学習の充実に向けて、スポーツ人類学専門領域はどのような役割を担うことができるか。現行教科書の記述を参照し、またこれまでの本領域で築き上げられた一連の研究成果を手掛かりとして、あらためて学校体育におけるスポーツ人類学の可能性（特に高大接続を念頭に）を探究したい。

[12 人-レクチャー-1] Exploring the future of sports anthropology in school physical education

*Hisashi Sanada¹ (1. University of Tsukuba)

3:00 PM - 4:00 PM

3:00 PM - 4:00 PM (Thu. Sep 9, 2021 3:00 PM - 4:00 PM Room 13)

[12 人-レクチャー-1] Exploring the future of sports anthropology in school physical education

*Hisashi Sanada¹ (1. University of Tsukuba)

<演者略歴>

筑波大学特命教授、博士（人間科学）。オリンピックと嘉納治五郎に関する歴史人類学を専門として、2010年に日本体育学会学会賞、2015年に秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞を受賞。現在は本学会スポーツ人類学専門領域代表および日本スポーツ人類学会会長、また教科用図書検定調査審議会専門委員を務めている。

2022年度から実施される高等学校の新学習指導要領では、「スポーツは、人類の歴史とともに世界各地で日常の遊びや生活などから生まれてきたこと、近代になって、スポーツは娯楽から競技に変化し、一般の人びとに広がっていったこと、現代では、競技だけでなく、広く身体表現や身体活動を含む概念としてスポーツが用いられるようになってきており、その理念が時代に応じて多様に変容してきていることを理解できるようにする」と明記されている。この学習の充実に向けて、スポーツ人類学専門領域はどのような役割を担うことができるか。現行教科書の記述を参照し、またこれまでの本領域で築き上げられた一連の研究成果を手掛かりとして、あらためて学校体育におけるスポーツ人類学の可能性（特に高大接続を念頭に）を探究したい。

Keynote Lecture | 専門領域別 | Growth and Development

Current status and perspective of learning activities in physical education considering anti-COVID-19 measures

Chair: Izumi Yoshida (Tokyo Gakugei University)

Thu. Sep 9, 2021 1:00 PM - 2:00 PM Room 8 (Zoom)

国内での感染拡大の可能性があった初期である令和2年3月2日から政府の要請により全国の一斉臨時休業が行われ、その後春季休業を経て、4月7日に政府の緊急事態宣言が行われたことや4月16日に全都道府県が緊急事態措置の対象となったこと等を受け、大部分の学校が5月末までの臨時休業を行いました。その後も、実技を伴う体育の授業の実施に当たっては、「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」については配慮を要したり、緊急事態宣言の対象区域に属する地域における体育の授業内容については、集団で行う活動は避け、なるべく個人で行う活動としたりするなど、様々な制約を受けています。しかし、そのような中であっても、持続的に子供たちの教育を受ける権利を保障していくため、体育の授業の実施に当たっては、通知やQ & A等において、指導順序の変更等を示してきました。また、学校現場においては、地域の感染状況等に応じた様々な工夫に取り組んでいます。今回、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した体育における学習活動の取扱いの現状について振り返るとともに、今後の展望についてお伝えできたらと思います。

[07 発-レクチャー-1] Current status and perspective of learning activities in physical education considering anti-COVID-19 measures

*Hideki Shiomi^{1,2} (1. National Institute for Educational Policy Research, 2. Japan Sports Agency Policy Division)

1:00 PM - 2:00 PM

1:00 PM - 2:00 PM (Thu. Sep 9, 2021 1:00 PM - 2:00 PM Room 8)

[07 発-レクチャー-1] Current status and perspective of learning activities in physical education considering anti-COVID-19 measures

*Hideki Shiomi^{1,2} (1. National Institute for Educational Policy Research , 2. Japan Sports Agency Policy Division)

<演者略歴>

平成6年度より京都市立小学校教諭、その後、京都市立小学校副教頭、京都市教育委員会体育健康教育室主任指導主事を経て、平成31年度より現職。

国内での感染拡大の可能性があった初期である令和2年3月2日から政府の要請により全国の一斉臨時休業が行われ、その後春季休業を経て、4月7日に政府の緊急事態宣言が行われたことや4月16日に全都道府県が緊急事態措置の対象となったこと等を受け、大部分の学校が5月末までの臨時休業を行いました。その後も、実技を伴う体育の授業の実施に当たっては、「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」については配慮を要したり、緊急事態宣言の対象区域に属する地域における体育の授業内容については、集団で行う活動は避け、なるべく個人で行う活動としたりするなど、様々な制約を受けています。しかし、そのような中であっても、持続的に子供たちの教育を受ける権利を保障していくため、体育の授業の実施に当たっては、通知やQ & A等において、指導順序の変更等を示してきました。また、学校現場においては、地域の感染状況等に応じた様々な工夫に取り組んでいます。今回、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した体育における学習活動の取扱いの現状について振り返るとともに、今後の展望についてお伝えできたらと思います。